

就職セミナー報告書

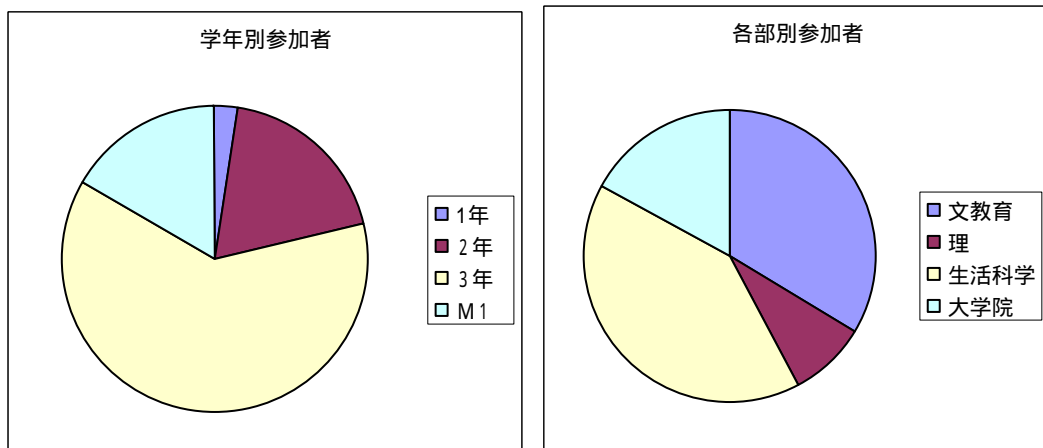
2003年9月30日(火)開催
お茶の水学術事業会

1) 当日の記録

セミナー参加者 84名
講師数 第1部 3名
第2部 第1部の3名+2名 計5名
ボランティア数 6名

2) アンケート結果(回収数14枚)

あなたの学年・学部は？



学年別では、やはり3年生の参加が多く全体の62%を占めました。そんな中で注目に値するのは大学院生の参加が20%弱あったことでしょう。

学部別でも、生活科学部が多く、全体の40%、そして文教育学部の33%と続きました。

この就職セミナーをどのようにして知りましたか？

友人から 3
チラシ(エレベーターやトイレ) 10
関係者から 1

なぜこのセミナーに参加しようと思いましたか？

- ・就職を考え出したから。
- ・就職活動のことをなにも知らないから。
- ・今なにをすべきか知りたかったから。

- ・内定者の体験談が聞けるということに興味があったから。
- ・就職活動に対し漠然とした不安があったから。

このセミナーの感想は？

<よかった点>

- ・いろいろな境遇・学部の講師の方がいてよかった。
- ・気軽に参加できた。
- ・お茶大の先輩の声が聞けて、身近で参考になった。
- ・就活を終えたばかりの先輩の話が聞けたので、就活のことがすこし分かった。

<改善点>

- ・理系の方の話が聞きたかった。
- ・広報が少なかった。
- ・希望職種・同じ学科の方が講師にいなかった。
- ・個別に話ができる講師の数はもっと多いほうがよい。
- ・エントリーシートや一般常識テストなど、「こういうものです」と実際に見せてほしい。

その他

セミナーの講師数は第1部・2部とももう少し多いほうがよいという意見や、第1部を講演会・第2部を交流会にしたのは効率がよかった、参加しやすかったなどの意見が聞かれました。

また、次にこのような学生のための企画があるとしたら、どのような企画を期待するか、という意見に対しては、「面接でどんな質問がでたかなど、具体的な話がききたい」といった意見がありました。

3) 講師の方の感想

- ・みんな就職に対する意識が高いと思った。
- ・女性の就職が厳しい状況にあることを改めて感じた。
- ・話しながら、かつての自分とセミナーの参加者を重ね合わせて見た。
- ・自分の話を聞いて、少しでも考えてくれることがあればいいと思う。
- ・なにを話すか考えたり、質問に答えていく中で、自分の就職活動の反省ができてよかった。

講演会・質問会に出演して下さった講師の方々、セミナーに参加して下さった皆さん、アンケートにご協力いただいた皆さん、ボランティアの方々、どうもありがとうございました。

< 綿内真由美さん >

人間文化研究科人文学博士前期課程所属
出版社内定

私の就職活動の流れ

私が就職活動を本気になって考えて始めたのは、大学院の1年のお正月明けからです。最初のエントリーシートを提出する企業が、1月末だったので、それに合わせて、1月のだいたい20日くらいから、急いでエントリーシートというものがどういうものか取り寄せて書いたという感じになります。1月、2月、3月とエントリーシート、会社訪問などをして、4月から面接に入りました。

どのようにして受けるところを選択したか

私は、これをやりたいというものが見つからなかったというか、色んなやりたいことがあったということもあって、ここだけに絞って就職活動をしようということを考えませんでした。教員になりたいという目標が一つにあって、そのためにいろんな社会経験をしておいた方が良いということも考えまして、まず就職しようと決めました。将来教員になりたいという夢を叶えるためにも、「色んな職種を回っておいたほうが良いだろう」、「両親も教員なので、一般の企業に勤めている方の考えを知りたい」と思ったので、金融だとか、メーカーだとか、情報だとか、ほとんど全ての職種をカバーして回りました。

色んな職種を回ってよかったこと

その点で一番良かったことは、様々な企業を目指す方と出会えた、いろんな考え方の人と出会えたということです。それから、企業の方と話す機会がたくさん持てたということ。例えば、自動車メーカーのタイヤ部門に所属されている方とか、なかなか話す機会がないですね。そういう方とも、会社説明会に行けば、実際に1対1で話してもらうこともできる。そうして様々な職についている方の、様々な職業に対するロマンというか、志というものを聞くことができたというところで、色んな職種を回ったことは、とても良かったと思っています。

最終的に出版社に決めた訳

最終的に出版社に決めたわけですが、その訳は、やはり教育に携わりたいというところもあったし、自分が哲学を学んでいるということで、自分で文字を作って、自分から何かを発信したいというところが一番大きかった。そうして色んな会社を回りましたが、最終的に内定をもらった会社のうちから、今の会社に決めさせていただきました。

就職活動と悩み

これがだいたい私の就職活動なのですが、色んな職種を回ってマイナスだった点は、学校との両立が難しかったということです。4月から、非常勤講師をしまして、高校のほうに週一回、教えに行っています。そのこともあったのですが、非常勤講師の仕事と、就職活動と、ゼミなど学校の勉強、その3つを両立させるのはすごく大変で、何で大変かということ、就職活動をすると絶対悩むのですよね。自分が何やりたいのということもあるし、これから自分の人生どうなっていくのだろうということを、一から考えなければならぬ。「自分の生い立ちはどういうところから始まって、どういう歩みをしてここまでできたのかな」ということを考えたり、「これから結婚して子どもを生むのかな」とか、そういう風に考えながら「就職もしなければいけないんだな」とか、いろいろ悩むことが多かったです。たぶん、1日のうちの3分の2くらいは悩んでいて、その悩みの合間に、勉強だとか講師の仕事だとかいうものをしていたので、かなりハードな毎日でした。時間はあったのですが、やはり、色々考える時間も就職活動には必要だと思います。

大学院を経ての就職

大学院に行ってから就職を考えたというところで、そんなに私は感じなかったのですが、院に行くのと就職の門が狭まるという人が多いです。私の友達でまだ就職活動している人もいます。でも、院に行くか行かないかというのは、皆さんがどれだけ勉強したいか、したくないかということだと思うので、やはりその辺は、自分との兼ね合いだと思います。私はそんなに気になりませんでした。

自分の足にあった靴を買おう

就職の活動をする場で、だいたい4月から6月の頭くらいまで面接を、1日3回とか掛け持ちしたこともあって色々回ったのですが、一番困ったことは、最初のミスなんですけど、靴が合わなかったんですね。靴が合わなくて、歩くのが大変だったことが、すごく記憶に残っていて、なので、みなさんこれから就職活動を始めるにあたって、スーツを買ったりだとか、シャツを買ったりだとか、靴も買うと思うのですが、靴は結構高いし何足も買う必要はないので、自分の足にあった靴を買うようにしたほうがいいと思います。

OG 訪問のススメ

一番いっておきたいことは、皆さん何社か回られて、最終的に自分の一番やりたいことだとか、自分のやってみたいことだとか、向いていることだとかを自分で決断して、内定をいただいた会社を自分で選ばなくてはいけないわけです。その時に、何が決め手になるかということ、この会社に入りたいというのがあった人は、それで目標達成なのですが、やはり、会社と自分の相性だとか、会社の将来性だとか、自分のやりたいことが本当にできるのかということを考えなければならぬと思います。

1番お勧めしたいのが、OG訪問をするということです。私の場合は、全くそういうことをせずに、いきなり会社説明会に行って、面接を受けてという感じだったので、自分が最終的にどこに行くべきなのかという決め手が作れませんでした。それで、就職課の方とか友達だとか、先生とかに、相当相談して決めました。そこで思ったことは、前にOGの方を訪問して、その会社がどういうところか分かっていたら、そういうことは迷うことはなかったのではないかと考えています。なので、皆さんも気になる会社があったら、積極的に、今からでもいいと思うので、OG訪問をしてください。

最後にメッセージ

あとは、みなさんはこの時期から就職を考えていらっしゃるのだから、私がとやかく言うことはないと思うのですが、自分が就職して、自分の責任で生きていくんだということを考えて、前向きに楽しんで就職活動をするということ、それだけ考えて、皆さんも自分と相性の合う会社を見つけるようにがんばってください。

<江頭明希子さん>

人間生活科学科発達臨床学講座所属
銀行内定

私の就職活動の流れ

私は、3年の春頃から、公務員と民間企業どちらにしようかを悩んでいました。両方だとかかなり大変だし、虻蜂取らずになるという話も聞いていたので、それで、6月頃に、民間就職にしようと決めて、就職サイト(リクナビ)に登録して、日経新聞をとりました。その後、大学生協を通じて参加者を募集していた、民間業者主催の就職準備セミナーに参加しました。このセミナーでは、自分で100万円貯めて親に負担をかけずに留学した話など、去年就職した人の具体例を教えてくださいました。そして、「自分はそんなすごいことはしていないが、今から利になることを身につけられるだろうか」など、真剣に悩みはじめました。そこで焦って、SPIや一般常識の問題集を先輩から貰って、やってみたりしました。8月中には、会社とはどういうところなのかと思って、インターシップの面接に行きましたが落ちました。社会人の方と身近に接して仕事をする機会はなかなか得られないので、皆さんも機会があったらチャレンジしてみれば良いでしょう。9月中には、TOEICを受けていました。履歴書に自分のTOEICの点を書くのであれば、600点以上ないと書かないほうがましと聞いたので、600点以上がとれるまで何回か受けました。10月に入ると、お茶大の就職室に、就職コンサルタントの方が週一回来て、エントリーシートの添削や業界の話などをしてくださるので、そこに行きました。ためになったので、皆さんも行ってみることをお勧めします。10月・11月くらいから、企業の採用ページがオープンし始め、目に付いた企業にどんどんエントリーし、12月頃から、合同セミナーや、企業の個別セミナーなどに参加しました。1月・2月は、エントリーシートを書くのがピークで、2月になると説明会や筆記がそれと平行して始まって、3月から面接が開始になりました。3月中は必ず毎日何かあって、1日に面接が2社・3社、それに加えてエントリーシートの締め切りもあり、かなり忙しかったです。3月の末から4月の初旬にかけて、OG訪問しました。そして、4月10日にT銀行から内定をもらいました。その後も興味のあるところは受けてみたのですが、4月いっぱい就職活動を終了し、T銀行に決めました。

どういう視点で企業を選んでいったか

どういう視点で企業を選んでいったかといいますと、まず暮らしに身近なことがしたいと考えて、メーカーを受けました。また、女性が長く働ける環境であることを重視し、女性の比率や勤続年数に注目して、百貨店や銀行を受けました。自分の専攻が活かせるということで人材のマッチングビジネスをしている会社、技能が身につくことを重視してIT関係も回りました。特定の業界にこだわらずに、色々回ったという感じです。

その中から、なぜT銀行に決めたのか

では、その中から、なぜT銀行を選んだかについてお話します。「地元の優良企業だから」という軽い気持ちでエントリーしておいたら、会社のほうからミニ座談会のお誘いを電話で受けて、参加しました。その後、会社の説明会、銀行員が個別に1時間くらい質問を受け付けてくれる機会を経て、面接に行きました。こうした選考プロセスで、私という人間をすごく丁寧に評価してもらえて、就職活動を通じて一番納得できました。また、OGに話を伺って会社の雰囲気良さそうだし、会った人たちが魅力的だと感じたことも大きかったです。

OG訪問について

私は、3月の終わりから4月の初旬にかけて、4社5名の方にお話を伺いましたが、それでは遅

かったと感じています。面接のピークが始まる前に色々お話を伺っておいて、それを上手く自分の志望理由に結び付けられる余裕があれば良かったです。因みに、1名はサークルの先輩、3名は就職課の名簿で調べて、会社の人事部や自宅に電話しました。後もう1名の方は、訪問したOGが、お茶大のOGの方を紹介してくださいました。OG訪問は、志望理由に具体性が出るし、自分をアピールする面でも重要です。知らない人に連絡をとって会ってもらうのは気後れしますが、だいたいの場合とても親切に対応してくれますし、何より面白かったので、ぜひやってみることをお勧めします。

ちょっとこれは問題だなと思ったこと

必修の授業の時間に学校の就職セミナーがあって、いつも同じ曜日の同じ時間帯にやるものですが、1回も出られませんでした。その辺は、学校のほうにも見直しをしてもらいたいです。先ほどお話した、就職コンサルタントの方も、火曜日の12時から2時の間にいらしていたので、3時限目を途中で抜け出して聞きに行くこともありました。

就職活動における注意点など

就職活動においては、時間に余裕を持つことが重要です。エントリーシートの提出、説明会への参加などは、早いに越したことはありません。エントリーシートは早めに出すと、会社側はやる気や熱意があると感じるらしいです。あまり締め切りぎりぎりに出すと、選考の順序が遅くなって不利になることがあります。説明会への遅刻は言うまでもなく厳禁です。それで落とされる人もたくさんいると思います。就職サイト、企業のエントリーページのパスワードは、必ずメモしてなくさないようにしましょう。そして、説明会などで寝ないこと。チェックされているらしいので気をつけてください。また、説明会で、「何かこの会社は変だ」と思うところは、何かやっぱりおかしいことが多いらしいので気をつけてください。「就職四季報」という分厚い、会社の詳しい資料がたくさん載っている本は、とても役立ちました。勤続年数や新入社員数というのは要注意項目だと思います。気になったところは、実際社員の方に詳しい情報ももらってから受けたほうがいいです。

活動しているうちに、やりたいことが変化したりするので、興味があったらどんどんエントリーし、初めから職種を絞らずに幅広く活動することは大切だと思います。面接では、知ったかぶりせずに、素直にはきはきと言うこと。幅広く受けている人は、他業種を受けていることをあまり言わないほうが良いと思いました。「本当にうちにくる気があるの?」と言われたことがありましたので。それと、店舗がある会社を受ける場合、店舗見学をしておいた方が良いでしょう。百貨店や銀行で、「店舗見学はしましたか」とよく聞かれました。面接が終わったら、された質問を必ず書きとめて、次回に生かしましょう。同じような質問をされることが多く、面接を受けていくうちに上手く答えられるようになっていくので、練習してください。

今からすべきこと

興味を持って新聞を読むこと、目に付いた経済誌を買ってみてざっと読んでみることで、良い経験です。サークルでもバイトでも勉強でも、自分はこれに打ち込んだと言えることがあるいいと思います。自分の専攻について理解を深めることも必須です。必ず聞かれますし、勉強をやってきたということはアピールになります。

車の免許の取得や英語の勉強は、就職活動を始めると時間が取れないので、時間のあるうちにやってしまうのがいいと思います。ただし、その人がどんな人かを見て新卒採用は行われるそうなので、資格で採用するわけではないということは言えます。でも、興味をもって、ちゃんと勉強ができるということは認めてもらえるので、勉強する価値はあると思います。あとは、就職室で会社の資料や先輩の体験談を見て、先輩が聞かれた質問に自分で答えてみるなどして練習を積んでおくといいでしょう。

<青木千佳さん>

生活環境学科人類科学講座所属

IT 企業内定

内定した会社について

私はK株式会社という会社に内定しております。K社というのは IT 業界です。もともと私が生活科学部の人類科学講座所属であることを考えると、「なんでコンピューターなの？」と、皆さん思うかもしれませんが、そういうことは良くあることなのです。私が来年どんな仕事を始めるかという、営業とか、SE、エンジニアの仕事をすることになっています。人類科学講座は、そういったコンピューターの勉強を全くしていませんので、会社に入ったと同時に3ヶ月間みっちり研修をして、コンピューターの知識を付けてから、フィールドに出ることになっています。

イギリス留学

では、私の3年生の後期から、今までの流れをざっとお話ししたいと思います。私は休学をしようと考えていて、3年生の11月くらいに先輩から、就職活動で使うような本をもらっておきました。3年生を終了してすぐに、1年間休学してイギリスに行って勉強してきました。それは、海外生活を体験してみたかったことと、英語を使った職業につきたいという強い希望があったからです。1年間の留学に向けて、1年生のときからこつこつとアルバイトをしてお金をためていたのですが、結局親に50万円くらいは助けてもらうことになりました。イギリスで何をしていたかということ、普通の大学に留学していたのではなく、インターンシップといって、普通の小学校の中に入って日本文化を教えるという活動をしていました。大学に留学するとおそらく日本人がたくさんいる環境であまり話すほうが身に付かないかと思うのですが、私がしたインターンシップでは実際にイギリス人の子どもたちの前で毎日話すということをしていましたので、オーラル面がすごく身についたと思っています。TOEICの点数も200点以上上がりました。

K社に内定をもらった経緯

私はイギリスで就職活動を始めました。10月の後半に、海外留学している日本人のための、就職フォーラムに参加しました。私の場合は、イギリスのロンドンで開催されたものでしたし、アメリカの場合はボストンなどでも開催されているようです。就職活動はしたことがないし、しかも海外だし、どうしたものやらと思って、すごく不安でした。一応日本語で履歴書を書いて、お茶大専用の履歴書というのがあるので、それを送ってもらって書いて、英語で英文履歴書も書いて、それを持参してそのフォーラムに行ってみました。そこには10社くらい会社がかきていて、TOYOTAのような人気企業もあれば、私の内定しているK社とか、様々な会社がかきていました。そして、K社のブースにいったら、人事の人ととても気が合ってしまいまして、その日の内に「来てくれないか」と言われました。それで私としてもK社が気にはなっていたのですが、その日のうちに「来てくれないか」と言われても踏み切れませんで、曖昧な返事をおきました。そして、日本に帰ってきたのが、今年の1月の下旬です。1月の下旬に帰ってきて、2月の中旬にもう一度K社に来てくださいといわれ、訪ねてみたところ、重役面接を受けまして、その場でOKをもらいました。ということで、私がK社に内定をもらったのは今年の2月ということになります。

商社ではなく、IT企業の総合職に決めるまで

内定しても、2月に私の就職活動が終わったわけではなくて、6月まで何だかんだとやっていた。K社がIT業界なのに対して、私が行ってみたいと思っていたのが、商社だったのです。商社と聞くと、すごくカッコいいイメージがあって、英語を使う仕事といったら商社以外ありえないと思っていました。そこで、3月くらいから商社の説明会に行き、いろいろあたってみました。そ

れですごく感じたのは、商社の総合職は、女の人は辛いなということでした。総合職と一般職って、その違いは皆さん分かりますか。総合職と言うのは要するにバリバリで転勤などもあるというもの、一般職は一般的には腰掛みたいな感じで、5年ぐらい経ったらだいたいやめていくような感じに言われています。商社の総合職を受けようと思うと、女の人はすごく辛いなと感じました。その理由は、10人の集団面接があったときに、女の人が1人だったりするのです。周りに9人男性がいて、自分だけ女性で、男性に張り合っすぎていいことを言えるわけもなく、そういった場合すごく辛かったです。

それで私は、総合職をいったん諦めまして、商社だったら一般職でもいいのではないかと思います。5月くらいから、商社の一般職が始まるのですが、それで一般職の採用を受け始めました。人気企業を初めとして、中堅の商社など色々受けまして、6月の下旬に一般職の内定をもらったのですが、「ちょっと待てよ」と思ってしまいました。というのは、一般職で商社に入った場合、元気よく満足した仕事ができるのだろうかと考えてしまったからです。総合職として、男の人と対等がんばって行くのか、それとも一般職として腰掛で、男性陣の結婚相手のような感じに思われて会社にいるのかと考えたときに、はっと我に帰って、総合職でやってみようと思いました。それで、6月の下旬にK社にお願いしと通知を出しました。です、K社にはすごく申し訳ないことをしたのですが、2月に内定をもらってから4ヶ月も待ってもらっていたのです。4ヶ月も待ってくれる会社はそうはありません。皆さんはおそらくもっと早い決断を迫られることのほうが多いのではないかと思います。

就社ではなく就職の時代

皆さんには色々な会社を見て欲しいと思います。いい会社に行きたいと漠然と思っていると思うのですが、「いい会社って一体何なのか」と考えてみてください。皆さんが知っているのは、だいたい、CMで見かける会社くらいで、本当にほんの少ししか会社を見たことはないと思うのです。これからは、「就社ではなく就職の時代」だといわれています。というのは、いったんある企業に入ったら、ずっとその企業で勤め上げる必要はなく、ある職種、自分がやりたいと思った職業について、それから、どんどんキャリアアップして転職して、もっとお給料の高い会社に進んでいくという道もあるということです。例えば、出版ならば初めから講談社に行かなくても、小さな会社ですごく実力をつけて、それから自分の行きたい会社、もっとお給料が上がるような会社に行くという手もあるということです。それをよく肝に銘じておいて欲しいと思います。

やっておくべきこと、大切なこと

これを言うと皆さんギョッとすると思うのですが、自分を磨くことです。自分がすごく自信を持てるように、シェイプアップしたりすることがすごく大事なのではないかと思います。というのは、やはり女性は会社を受けるときに、きれいなほうが得なのです。悲しいかな、これは事実なので、やはり今から自分に自信をつけて、スーツを着て格好よくなれるように、自分を磨いていって欲しいと思います。

だんだん就職に向けて気持ちを高めていくことも大切です。例えば、アルバイトをずるずると就職活動中もしてしまうのは、私はあまり賛成ではありません。就職活動に切り替える、そういうモードになっていくというのが大切なことだと思います。

OG訪問については、年が明けてからではとても時間がないので、3年生の方は今年のうちやっておいたほうがいいと思います。10月中には、どんな仕事かなど大体のことを考えておいて、12月の上旬くらいには、先輩を訪ねてみたりすると、時間に余裕が持てると思います。ということで、皆さん頑張ってください。

質問会の記録

<青木千佳さん>

生活環境学科人類科学講座所属、IT 関連企業内定

- Q. 去年アメリカで二ヶ月間アルバイトしました。今までの大学生活の中でとても役に立って充実した経験なので、そのことを就職活動でもアピールしたいと思っています。青木さんはイギリスでのインターンシップのことは、就職活動でアピールしましたか。
- A. そうですね。アルバイトでお金を貯めたこととか、行動力があるとか。でも実際にはそのようなことをアピールする人は山ほどいます。ただインターンシップやボランティアをやったというだけでなく、面接でハキハキと答えることや、仕事ができるということアピールすることです。
- Q. OG 訪問はどのようにするのですか。
- A. 大学の就職課で調べて、お茶大の卒業生のいる企業で行きたいところの名前と電話番号を控えておきます。電話をするときは途中で電波が切れたりしないように携帯からはかけないほうが良いです。そして「私は～ですが、平成～年入社～さんをお願いします」とまず受付に電話します。ここですんなり受け付けてもらったなら、「実は就職活動でお話したいんですけど～月～日は空いていらっしゃるでしょうか」と聞きます。もし、受付に「うちの会社ではそういうことはしていない」と言われたら、人事に電話をしてみます。しつこく食い下がっていかないと、積極的でないのでうちの会社に来てくれなくても良いと思われたりします。でも基本的に、人事は学生の味方だと思って良いです。
- Q. 訪問した先の OG の方の会社について聞きたいこともあれば、そうではなくて業界のことを聞きたいこともあると思うのですが、それは失礼にならないですか。
- A. 失礼ではないです。会社のことはホームページで調べておいたほうが良いですが、業界の話聞いてもいいと思います。それから、履歴書やエントリーシートを見てもらったりもできます。一回限りの場合もありますし、二・三回指導してくれる人もいます。大事なのは OG 訪問をした後に、こっちから連絡してお礼をすることです。話を聞いて終わりにするのではなく、次につなげることが大切です。OG 訪問をしても質問をしない人がいるとき聞きますが、なるべく質問はたくさん用意して行ってください。
- Q. 今いる学部と違うことがやりたいのですが大丈夫でしょうか。
- A. 良くあることです。日本の企業では何年か訓練してくれますので、大丈夫だと思います。
- Q. 面接では大学で何を勉強したか聞かれますか。
- A. 卒論の内容について聞かれたりしますが、就職活動しているときは決まっていない時期だったりするので、今まで何を勉強してきたかを聞かれます。成績はあまり見られません。あまりにいいのと悪いのは聞かれますが。逆に成績があまりにいいと今まで勉強しかしてこなかったのかと聞かれたりします。それから有名企業ばかり受けないでください。CM で流れているところだけでなく、会社と会社をつないでいる会社で、ぜんぜん宣伝していないところが、儲かっていて良い会社ということもあります。
- Q. 面接の日がかぶるときはどうしましたか。空きコマはどのように使いましたか。
- A. 選びましたが、私は一日に三社入ることもありました。空きコマの使い方は難しいです。時間があるときは大学にいたり、レストランなどでエントリーシートを書いたり、時間をつぶすことにも疲れるのですよね。

質問会の記録

<江頭明希子さん>

人間生活学科発達臨床学講座所属、銀行内定

- Q. 公務員と民間企業どちらか迷われたとのことですが、どうして民間にしようと思ったのですか。
- A. 公務員は試験に受かって面接で落とされる可能性があります。1年間がんばって、試験に受かってもらえなかった場合に、新卒採用を受けられなくなる。そのリスクをおかす勇気がなかったというのが大きな理由です。それに、公務員というのもルーティンワークかなと思って、様々な経験をできるという点では、民間企業も魅力的だと思いました。悩んでいるうちに日が経ってしまって、あまり時間がなくなってしまったというのもあります。でも、試験を受けて、民間を両立するのも、自分しだいでも可能だと思います。
- Q. 一般常識や社会や経済の仕組みなどについて、かなり自信がなくて、今から勉強しようと思うのですが、どこの会社の参考書がいいでしょうか。
- A. 一般常識に関して私は、「朝日キーワード」をやりました。あとはやはり新聞を読むのが大事だと思います。言葉だけで覚えていても、因果関係がわからないとしょうがないので、キーワードで知識を仕入れて、新聞でも理解を深めるという風に進めるといいと思います。
- Q. SPIがよく分からないのですが。
- A. SPIは、あまり難しくない漢字の問題や、算数の問題みたいなものを40分くらいでバーっと解く感じです。業者から買っているところが多く、同じ問題が何回も出たりします。
- Q. 会社の調べ方が分からないのですが、業種などぜんぜん決めてないので、どうやって調べて決めたらいいですか。
- A. リクナビ、日経就職ナビ、毎日就職ナビというのが、3つ大きな就職サイトです。その3つにインターネットで登録して、自分が興味のある業界にチェックボックスでチェックを入れておくと、それに少しでも引っかかるような会社は、自分のページに送られてくるようになっていきます。そういう中からちょっと興味があると思ったら選ぶなどします。就職四季報で業種別に調べてもいいでしょう。就職四季報は、女子版と普通版があって、女子版のほうが女性の就職についてフォーカスして、細かく書いてあるので、使いやすかったです。就職室にいて、資料を調べるのもいいと思います。
- Q. そのOG訪問というのは、1回にどのくらいの時間かかりますか。
- A. 相手は会社員で忙しい方たちなので、1時間とっていただけたらラッキーという感じですね。
- Q. 今の時期に勉強しておいたほうが良いことってありますか。
- A. 私は、「経済が面白いほど良く分かるシリーズ」を読んでいました。株式の仕組みなどについてやさしく解説してあり、新聞のどこを読めばいいのかのポイントがつかめたりします。あとは、自分の専門を理解しておくことは必須です。
- Q. 総合職に転勤はあるのですか。
- A. T銀行の総合職は、県内での転勤が3年くらいごとにあります。転勤しないというのも、人間関係がよどんだりして問題だと思います。全国転勤がある会社の場合、自分が結婚などを考えていて転勤が嫌でも、それを言ったら採用してもらえません。転勤したくない場合などは良く調べましょう。知人に、会社に入っていきなり九州で働くことになって、そこで6年営業をして戻ってきたという人がいます。社会人になったら、ここでしか働きたくないというようなことは、通らないのである程度覚悟しておく必要があります。

質問会の記録

<江頭明希子さん>

人間生活学科発達臨床学講座所属、銀行内定

Q. 銀行の総合職は、具体的にどんなことをするのですか。

A. 会社に対する融資や、ベンチャー企業に対する融資、個人営業といって住宅ローンの貸し出しをしたり、投資信託と株式を組み合わせるとテクしたりします。総合職と、特定総合職というのがあって、特定総合職というのは、特定の地域しか転勤がない、法人に対する商売業務はしないというものです。だいたい総合職と同じです。

Q. 銀行に内定するまでに、その会社でどれくらいの面接をしましたか。

A. まず、ミニ座談会があって、一時間くらい質問を受け付けてくれる会もありました。選考はしていないとは言いますが、基本的に会社の人がいるところでは見られていると思っていいですね。それを抜きにすれば、全部で四回ですね。三次面接で決まって、四次面接で意思確認です。一次面接は個別面接で、五分くらいしかなくて、二次面接が三人対会社員、三次面接が私対役員数人、四次面接が私一人対二人です。最初のほうが、どんどん絞っていかなくてはいけないので、一次二次あたりで集団面接のことが多いです。

Q. 知識は、就職してから勉強して身につけるんですか。

A. 財テクや投資信託の勉強などは、研修を受ければ大丈夫です。でも、新聞が分かる程度にはなっておいたほうが良いです。株式がどういう仕組みで動いているのかなど、知識を付けておいたほうが良いです。

Q. 一人暮らしだと一般職に入れてもらえないという噂を聞いて、自宅手当ととも出ないし、お給料も低いから、できるだけ実家から通える範囲がいいと聞いたのですけど。

A. 一人暮らしをしている人が少し厳しめというのは聞きますが、自宅生でないから取らないということは特になくと思いますね。銀行は、初任給がすごく低いので、自宅から通える範囲の人をとりたいたいというのはあるようです。一般職に限らず、総合職でも。でも、寮もあるし、優秀で会社を取りたいと思えば、自宅生でないという理由で落とされたりしないでしょう。要は、どれだけ自分をアピールできるかということですね。

質問会の記録

<佐藤寛子さん>

人文学科地理学コース所属、電力会社内定

Q. 一番悩んだことは何ですか。

A. 常に悩んでいた感じ。精神的疲労が大きかったです。圧迫が一ヶ所あって、自分の今までやってきたことに関して言ったら、薄っぺらいとか、理論がないとか言われました。あと、パンフレットを見てどの部署のどの人の仕事に興味もったかと聞かれたこともありますが、会社研究をぜんぜんしてなくて、そこを切り抜けられず、色々言われました。でも、そこで黙り込んでしまうのではなくて、すぐに謝りました。会社研究が甘かったのが申し訳ないですと素直に謝ったのがよかったのか、次の面接は行かせてもらえました。

Q. 重要なことは何ですか。

A. 説明会に行くことです。感想文を書いてくださいと気軽な感じで紙を渡されるなどして、名前をチェックされます。そして、それが面接のときにエントリーシートの横においてあったりします。一番最初にその会社に接した時点から見られているという感じです。私は内定した会社の説明会は、3回行きました。内容は同じなのですが、参加して、出席票みたいなものを出しました。それが必ずしも合格に繋がるわけではないのですが、面接のときに、「君3回も来ているんですか」と言われました。口で言うよりも、行動のほうが、その会社に熱意を持っていることを示すことができると思います。

Q. 私たちは地理の3年なのですが、何を勉強しているか聞かれましたか。

A. 地理の人は誰でもそうですが、フィールドワークのことを絶対言うのです。だから、フィールドワークのことを聞かれるので、そこでいかに壮大に広げて話すかが重要です。色んな場所に行っている人々と接したと言うのが、他の学生と違う点なので、営業でもやっていけるなどと言います。地理の人ではなくても、大学生活で打ち込んでいたことがあったら、それは言うべきです。ただし、思い付きではなく。

Q. 佐藤さんが受けられた会社は男性的なイメージが強いですが、その辺はどうですか。

A. 某電力会社では1回も女性社員を見ていないです。某鉄道会社は、一人二人見ました。私は、地理で、人間と常に接している、地元の人と常に接している会社を選んだほうが、自分が進みやすいかなと思いました。自分の好みというよりも、自分の専門の話をしやすい会社、進みやすそうな会社を選ぶのも、一つの手だと思います。

Q. 振り返って、あの時ああしていればよかったということはあるですか。

A. グループディスカッションの時に、すごく難しい題材がでるのです。某鉄道会社では、「採算路線の公的資金投入について議論してください」という議題でした。だから、新聞を読んでいればよかったと思います。グループディスカッションはだいたいどの会社でもあって、皆で座って、会社の人が奥のほうにいて、議題を言われて勝手に議論しろという感じです。司会役も自分たちで決めてすすめます。数をこなせば、グループディスカッションは上手くやれるようになっていきます。ただ、自分の意見ばかり主張するのはすごくマイナスで、点数を引かれたりします。

Q. 3年の後期は授業をどのくらいとっていましたか。

A. 3年の後期は、そんなになかったです。卒論は、今になってやっているという感じです。先生は決まっていた。私は気候学で、環境とか自然系のことをやりたい、仕事としても環境に関わったことをやりたいと思っていました。ですが、企業の環境部と言う部署は小さいし、実際何をやっているかわからない会社も多いので、なかなか環境と言う仕事に携わるのは厳しいなと思いました。電力会社だと、自然と常に闘っているというか、自然からエネルギーをえて

質問会の記録

<佐藤寛子さん>

人文学科地理学コース所属、電力会社内定

いるので、一番行きやすいなというのはありました。私がなぜ院に行きたいと思っていたかという、環境コンサルという仕事につきたいとっていて、そういうところに行くのなら、院に行行って専門性をつけたほうがいいかなとっていました。だから、悩んでいて、エントリーシートも20社くらいしか書いていなくて、どうしても行きたいところだけというつもりで、もしそこがダメだったら絶対院に行くと思っていました。

Q. 面接で「こんなこと聞くの?」と言うことはありあましたか。私も、インターンシップの面接で、「あなたにとって友達は何ですか」と聞かれたんですが。

A. 私も、九電の最初で、「あなたはどんな人になりたいですか」と聞かれて、頭が真っ白になってしまったんですが、ありきたりなことを言ってしまうしました。ただ、その理由付けを、自分が今までやってきたことと結びつけて具体的に話すといいかなと思います。思い出しました。私は「だれかれも愛される人になりたい」と言いました。それで「なぜですか」と聞かれたときに、フィールドワークを通していろんな人と出会ったことで、人とのつながりは大切だと思ったというようなことを言いました。抽象的にしゃべると、向こうもありきたりだと思うので、自分の経験から、具体的に話すのが良いと思います。

Q. Uターン就職について。

A. 実家が長崎で、一生東京に住みたくないと思って、Uターンしたいと思い、公務員を志望していました。しかし、そういう志望動機では、とても、仕事内容と自分の適性が合わなくて、公務員は途中で止めました。それで、地元を受けようと思ったら、九州はそんなに大きな会社がなく、結局はUターン就職とはいっても、2社くらいしか受けていなません。JR西日本では色々言われて、関西弁で強くて辛かったです。

・アドバイス

就職活動をやっている間に、ノートを用意してこんな感じに(佐藤さんのノートを持参してくれました)説明会では聞き取ったことを書いて、面接では終わってから聞かれたことをかいておくと良いと思います。そうすれば、他の会社にも生かせるし、面接でも説明会にきたか聞かれて、そのとき何が印象に残ったかを聞かれることがあるので、ノートを見て復習をしていくことができるので。あとOG訪問したかと聞かれたこともあるが、お茶大はOGが少ないですね。でも、社会人の人の話を聞くと言うのは、ためになって良いと思います。お茶大が社会からどのように見られているのかも分かりました。おっとりしているとか、専門から広げる意欲がないとか、そんな感じです。

質問会の記録

<横川麻美さん>

物理学科所属、製作所内定

Q. 企業研究は、何をどうしているかわからないのですが。

A. 初めはとにかくエントリーします。そして、就職四季報で勤続年数や離職率、福利厚生、平均年齢などを調べました。また、どれだけ開発力があるかを見る意味で、資本金のうち開発費はいくらかを調べたりもしました。そして、そこで気になったことを、親などの社会人や、OG訪問の際に聞きました。例えば、社員が1000人しかいないのに、300人も採用するのはなぜかなど。

Q. 私は現在1年生で、自己分析などということは今まで知らなかったのですが、どういうことをするのですか。

A. 大学4年間でやったことを書き出して、それをどんどん深めてノートに書いていくというようなことをしました。また、友達に、自分の分析を頼んで書いてもらったりしても、意外な発見があったりします。

1年生でも、バイトなどで感じたことやエピソードなどを日頃からノートに書きとめたりしておくといいでしょう。会社の人は、見る目が鋭いので、やる気がないことなどはすぐ見抜かれます。自分をよく知って自分のことを聞かれてもしっかり答えるためにも、エピソードなどをしっかり話すことができるためにも、自己分析は大切です。

Q. 早く始めてよかったことは？

A. SPIなどの筆記試験の勉強です。物理学科なので、国語や社会が得意ではないのですが、問題集を1冊買って、何度も解くとできるようになります。

Q. やはり就職活動は大変ですか。

A. 1月2月が就職活動のピーク。テストの時期と重なるため、テストとの兼ね合いが難しかったです。だから、筆記試験の勉強は、できるときにしておく必要があります。また、早いうちから日々印象に残ったことなどを、ノートを作って色々書き留めておいたり、自己分析ノートを作ったりしておくといいです。

Q. 面接について。

A. 面接で聞かれる質問には、長々と答えるのではなく、ポイントを捉えて答えるようにすることが大切です。話がまとまっている人が有利です。また、大学生は社会人の前でじっくり話ることがないから、そういう機会を作って練習しておくことも大切になります。

Q. OG訪問で聞いてよかった質問は何ですか。

A. 会社から提供しているものは、チェックして欠かさず応募すべきです。知り合いをOG訪問する場合は、自分の就職活動のときの話を聞いてみたり、行きたい会社の実情を聞いてみたりすると良いと思います。例えば、「5時に帰れます」と言っているけど、実際はどうかなど。

Q. 成績は実際どこくらい考慮されるのですか。

A. D評価があると面接で突っ込まれることもあります。でもそこは、苦手でしたなどと正直に言えばよいでしょう。受講放棄の×印は、2月頃以前には、提出用の成績証が出ていないので、2年生時の成績証のコピーを提出しなくてはならず、×印はばれてしまいます。

Q. 注意点などありますか。

A. 就職活動の手続きはパソコン上で行うことが多いですが、ノートを用意して「いつどこにエントリーした」など、メモしておきましょう。そうすれば頭に入ってきて覚えることもできます。

質問会の記録

< 綿内真由美さん >

人間文化研究科人文学博士前期課程所属、出版社内定

- Q. 大学院への進学は有利なのですか、不利なのですか。
- A. (主に修士の場合) 企業によります。銀行や地方で学歴重視のところは有利かもしれません。しかし、都内の企業では必ずしも有利とは言えません。大学院に行くのなら、本当に勉強がしたいから行く、そして研究者になるくらいの覚悟で。私は二年で大学院を出ると決めていきました。やる気があれば良いと思います。でも、覚悟はしておいたほうが良い。企業は若い子が欲しいし、就活をしていても周りは学部生ばかりです。院卒の学生を受け付けていない会社もあります。けれど、私が受けた中では二社くらいでした。意識がぐらぐらして、本当に就職したいのかわからないような人は、就職がなかなか決まりません。教員を目指すなら、大学院に行ったほうが良いかもしれません。
- Q. 幅広い就職活動をする時、志望動機は企業によって色々なパターンを考えるべきですか？
- A. 自分が持っている志望のペースはどこでも変わりませんが、その上につける飾りを帰る感じですか。とりあえず、地道に会社のことなどリサーチして、それに対応したことをできる限り考えていくと良いと思います。大変ですが、色々な会社があるので、それに対応したことを考えるのは楽しいです。
- Q. 自分の行きたいところはどうやって探したのですか。
- A. 私は、「日本の出版社」というホームページでしらみつぶしに探しました。そうやって調べて探すが良いです。小さい会社のほうが面接は丁寧です。自分なりの答えをその場で考えて答えなくではいけない場合もあります。
- Q. 教員免許を持っている場合、お茶大だと特に「なぜ教員にならないのか」と言われるのでは？
- A. 「なんで教員にならないのか」ということは、ほとんどの企業で聞かれました。私は「親が教員だったので、親の仕事のことを知りたくて教員免許をとりました」という逃げ道を用意しました。だからといって、聞かれるから履歴書には書かないということはない。私は華道やビリヤードなどまで書きました。書くと、そのことについて聞かれます。そこで上手く切り返せば、そこから会話も弾みます。教員にならないのかという質問も、嫌な雰囲気の中で聞かれたわけではなく、普通に聞かれました。ただ出版会社で一つ、「あなたは先生になったほうが良いよ」と勧められたことがありました。その会社は落とされてしまいました。私はその面接で、「少し教員になりたかった」というようなことを言ってしまったので、そのせいだと思います。やっぱり、そういうことは表に出してしまうといけないのではないのでしょうか。教員免許自体は学部でないと取れないので、取るとよいと思います。大学院ではいざというときに非常勤などで使えます。塾にも入りやすく、自分のやりたい職業を見つけるまで食いつなぐこともできます。
- Q. 就職の際、資格があることは有利ですか。
- A. 後々自分のやりたいことをやるためには有利だと思います。院は時間がたっぷりありますが、それを有効活用しないとダメです。企業研究やOG訪問といったことも、したほうが良いです。OG訪問は大切です。自分が社会人になるイメージも湧いてくるので。院卒での就職は狭き門ですが、会社もたくさんあります。いざとなったら、保険のおばちゃんや塾講師でもいい位の覚悟は必要です。成績を上げる教え方をしなくてはならない塾講師は大変ですが、私ももし就職が決まらなかったら、塾を受けていたと思います。専修免許は大学院でとれました。